

3) 使用上の注意・点検のポイント

使用する前に

- 安全の確認のために、ブレーキが甘くないか、タイヤの空気が抜けてないか、他の部品がしっかりとまっているか、乗ってみて曲進・振動・異常音がないかを点検する。
- 屋内で使用する場合には、室内を整備し、スムーズに移動できるようにする。

①車椅子各部の名称

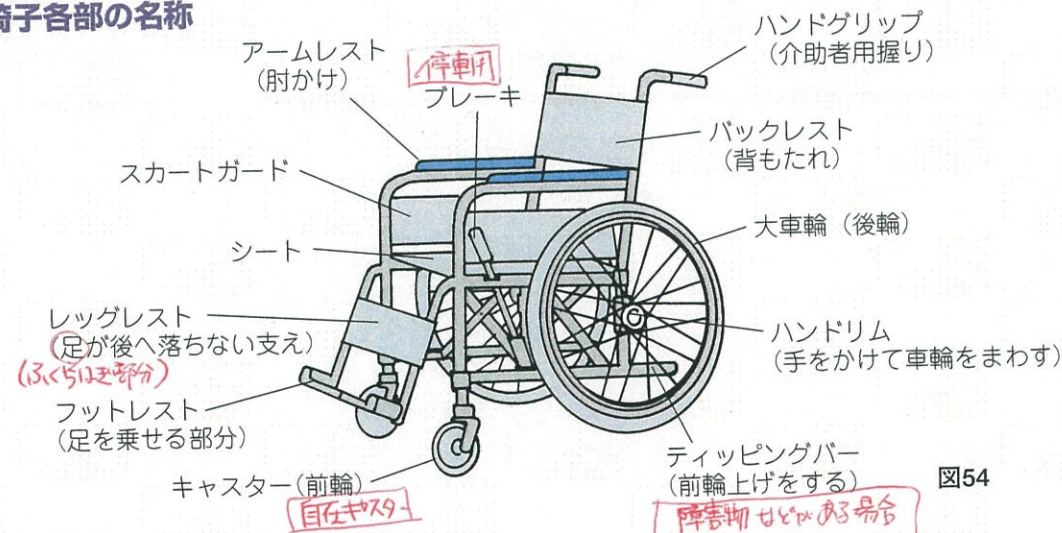


図54

②車椅子の折りたたみ方・ひろげ方

折りたたみ方

①フットレストを上げる



②シートを持ち上げる



③完全に折りたたむ



ひろげ方

①外側に少し開く



②シートを押し開く



注意

ひろげる時、シートの下に指をはさまれないように…

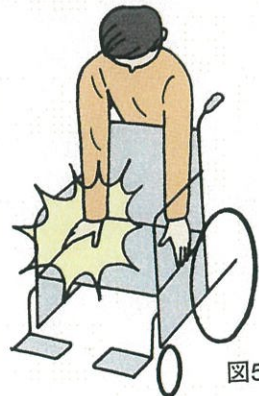


図55

4) 車椅子への移乗・移動 (片麻痺の場合)

①車椅子への移乗

ア) 1人で移乗

- ベッドに対して約30°の角度で、健側に車椅子を置く (図56)。
  - ブレーキをかけ、フットレストを上げる。
  - 健側の手で、向こう側のアームレストを握り、手と足に力を入れて立ち上がる (図57)。
  - 健側の足を軸にからだを90°回転させて、車椅子の前に立つ (図58)。
  - 静かに腰を下ろし、フットレストを下げ、足を乗せる (図59)。
- ※レッグレストは、外しておく場合もある。

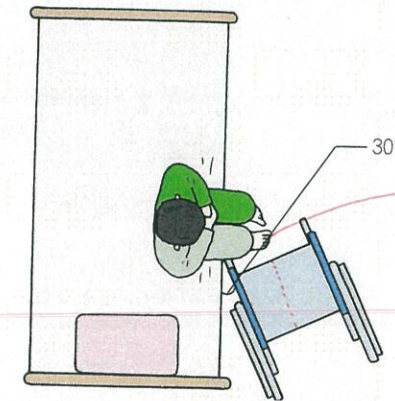


図56

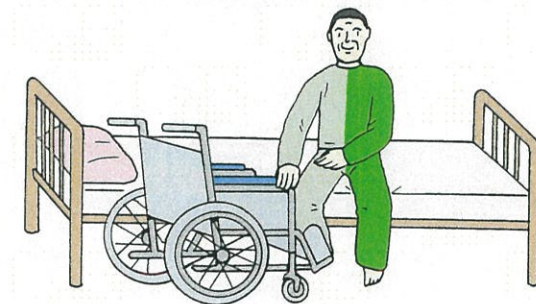


図57

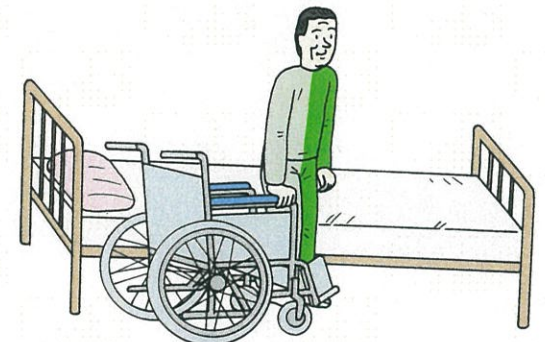


図58

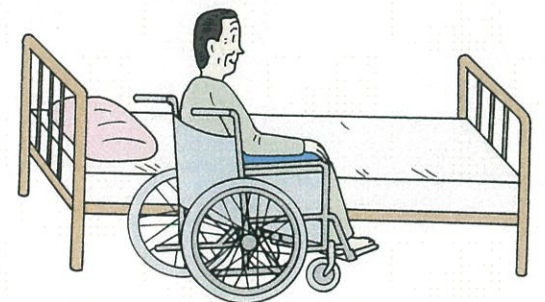


図59



②車椅子の移動

ア) 留意事項

- 安全のため、使用前の点検を十分行う。
- 安定した姿勢に座らせる。
- 走行中に、手や足を巻き込まないように注意する。
- 移動先、目的などを確認し、コミュニケーションを図る。

イ) 操作の基本

○押し方とブレーキのかけ方

- ・車椅子の後方に立ち、片手でハンドグリップを握り、もう一方の手でブレーキを外す。反対側のブレーキも同様に外し、両手でハンドグリップを握る。
- ・周囲の安全を確認し、お年寄りの様子に注意しながら、ゆっくり押す。
- ・車椅子の横に立ち、片手でハンドグリップを握り、他方の手でブレーキをかける。反対側も同様にしてブレーキをかける。

必ずどちらかの手でハンドグリップを持っておく!!

○キャスター（前輪）上げと移動

- ・ティッピングバーを踏むと同時に、ハンドグリップを後方に引き、下げる。
- ・お年寄りが、不快に感じないように操作する。（上げる前に必死色をかく）
- ・じゃり道など前輪がとられやすい場所では、前輪を浮かしたまま、後輪だけでバランスをとって移動することもある。

障害物やリヤリのれまてく（当たるといい）



図66

○段差の上がり方

- ・ティッピングバーを踏んで前輪を上げ、前輪を上げたまま前へ進み、段の上に前輪を乗せる（図67）。
- ・更に前進し、後輪が段にぶつかったところで、ハンドグリップを持ち上げながら、前に押し出す。できるだけ衝撃を少なくするよう気をつける（図68）。

（自分体下部分を支え手は前へ出す）

力まかせにいい!!



図67



図68

○段差の降り方

- ・後ろ向きになり、ハンドグリップを持ち上げるようにしながら、ゆっくり、静かに後輪を下ろす（図69）。
- ・前輪を上げて後方に下がり、フットレストとつま先が段差に当たらないようにして、前輪を静かに下ろす（図70）。

ティッピングバー特に便利でいい（後輪調整がいい）  
最後



図69

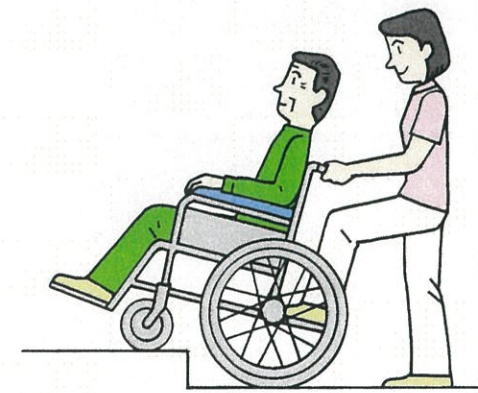


図70

○坂の登り方

- ・介助者のからだを前傾にして、一步一步確実に押し上げる。



図71

車椅子を停めるときは車輪の向きにも気を配る。



このとき介助者の前に立ちかかるとお年寄りに車椅子が倒れる可能性がある

○坂の下り方

- ・緩やかな下り坂は、軽くブレーキをかけながら、前向きでお年寄りの様子を見ながら下る。
- ・急な下り坂は、後ろ向きで車椅子を支えながら下る。

体全体で 1歩かき



図72



4) 視覚障害者への対応

① 留意事項

- 目的地まで安全、確実に誘導する。
- 周囲の環境を把握し、視覚障害者にその状況を伝える。
- 歩行中は、同じ歩調で歩き、急にスピードを変えたりして、リズムをくずさないようにする。
- 視覚障害者の気持ちを、くみ取るように努める。

白杖を置いておられても  
「お手を貸してはらうか？」の  
一言は嬉しい

② 基本的方法

- 介助者は、視覚障害者の横に並び、手を取って自分の腕に触れさせる。
- 視覚障害者は、介助者の肘のすぐ上を、はさむよう軽く握る。
- 介助者が、半歩前を歩く。

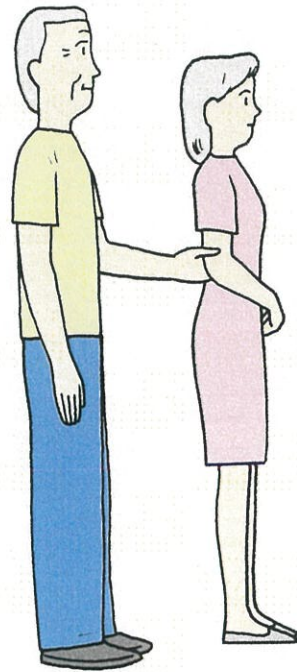
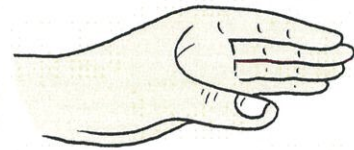


図86

ア) 階段の昇降

- 階段の手前で止まって、階段の昇降を伝え、ステップ面に、まっすぐ向かい合う。
- 視覚障害者は、つま先か白杖で階段の先端を確認する。
- 手すりを使用する場合は、手すりに触れさせる。
- 介助者が、一歩先をゆっくり昇降する。

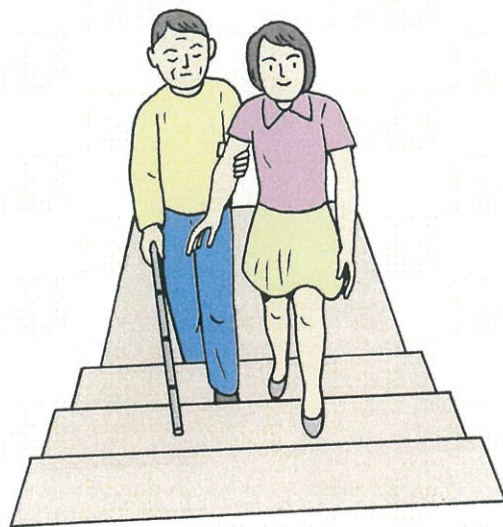


図87

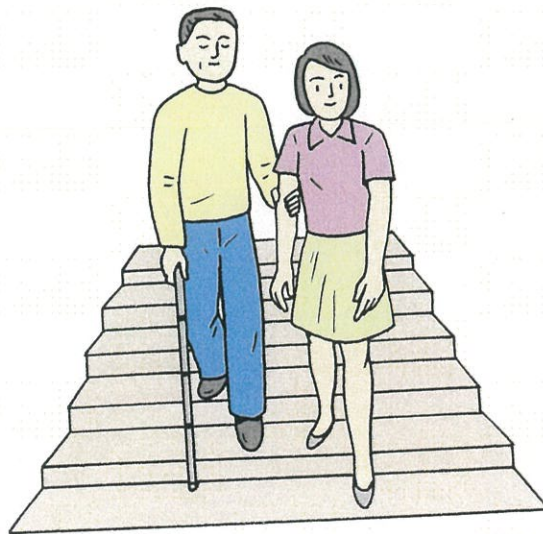


図88

イ) 椅子への誘導

- 椅子の後ろに誘導し、いったん立ち止まる。
- どのような椅子か説明し、椅子の後ろにいることを伝える。
- 視覚障害者の手を、椅子の背当てに誘導する。
- 視覚障害者は、背当てから椅子の向きを確認して座る。

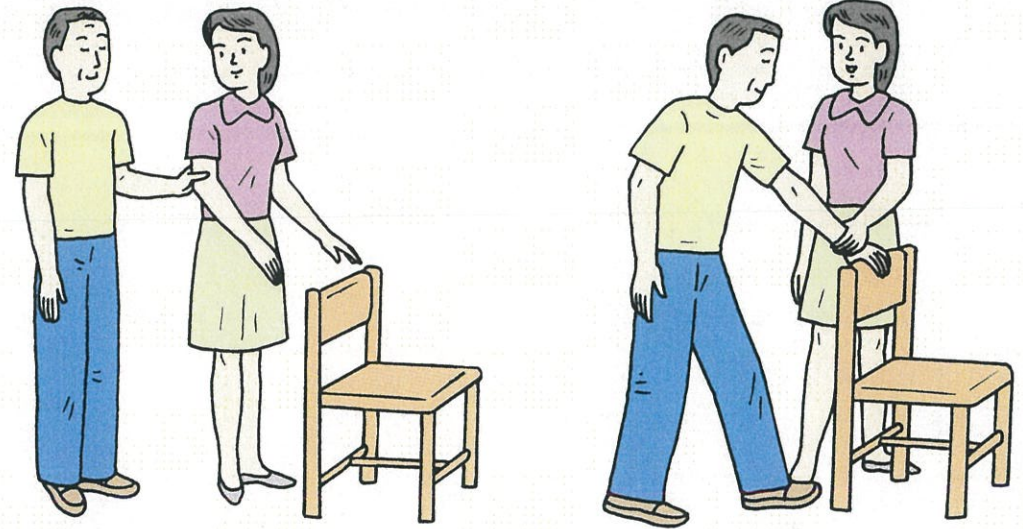


図89

ウ) 人混みや狭い場所の通過

- 人混みや狭い場所に近づいたら、いったん立ち止まり、状況を伝える。
- 誘導している手を背中側に回す。視覚障害者は、腕を伸ばして介助者の一歩後方に位置する。
- 通過したら立ち止まり、腕を戻して元のように横に並ぶ。



介助者の肩を掴むのは良い。  
その場合、右手で掴むのは左肩。  
左手で掴むのは右肩。

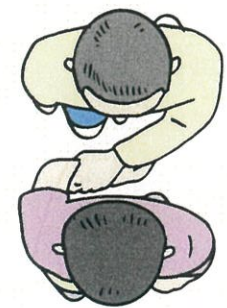


図90